



学問の真髄に迫る授業

平成29年度卒業  
東京大学理科1類  
蟻生 高人

### 「勉強」とは？ ～栃高で、考えよう～

「勉強は受験のためにするもの」そんな幻想を打ち砕いてくれたのが栃木高校での三年間でした。

「勉強」とは何なのでしょう。難しい数学の問題を解いたり、大量の英単語を暗記したりすることでしょうか。国語辞典には、「本来は気が進まないことを仕方なくすること」とあります。これまでの学校生活で幾度となくテストを受け、成績評価を受けてきた皆さんにとって恐らく納得のいく説明でしょう。しかし、私は「より多様な視点や価値観を知り、今後の人生に訪れる答えのない問題を主体的に解くためにすること」だと考えています。現代社会では様々な情報が溢れ、その真偽を確かめること自体が難しくつづつあります。将来多様な分野でリーダーとなる皆さんは大量の情報に前に、「流される大人」になりたいですか。それとも知識や知恵を生かし主体的に行動できる「考える輩」になりたいですか。

栃木高校で出会う優秀な仲間や「考える輩」たる先生方は、学問はもちろん様々な分野で刺激をあなたに与え、受験のためだけでない「勉強」の意義をきっと実感させてくれるでしょう。泥臭くも情熱に溢れた栃高という環境で皆さんの夢への第一歩を踏み出してみませんか。

平成28年度卒業  
東京大学理科1類  
関 祐一

### 「通過点、としての栃高」

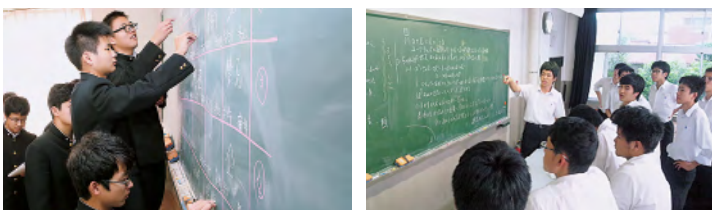
学業に関して栃高が持つ強みは、たやすく議論の場が手に入ることにあります。先生方は生徒の「知りたい」という思いと真摯に向き合い、生徒の疑問に応え、そして授けてくださる。学友との忌憚のないやりとりは刺激となり、さらなる成長をもたらす。学問に対し開かれた空間で過ごす3年間は、必ずや貴重な財産となるだろう。

栃高に入学したからには、その栃高という「道具」を使い倒して欲しいと思っている。栃高が提供するものはあくまで環境であり、この点では栃高はいわば道具である。道具は持ち主の意志無くして動作しない。この道具の原動力になるのは、他ならぬ「学びたい」という意志なのだ。

学問が掲げる目的は、これまで学んできた知識を以って新しい価値を創造することである。結局のところ高校3年間の学習はそのための準備段階であり、通過点にすぎない。これから高校生になる皆さんには、より広い世界を見聞きして、為したいと思うこと、創りたいと思うものを見つけ、その未来に向かって突き進んで欲しい。栃高在学中に与えられる環境は、次なる舞台に繋がる通過点として申し分のないポテンシャルを秘めている。思う存分未来を描き、羽ばたいて行ける場所、それが栃高である。

## 伸ばそう、君の能力を！

「おもしろい!」「知りたい!」を大切に、互いに高め合う  
生徒参加型授業で、教師と生徒が協力して学習内容を深める



## 令和2年度入学生の教育課程

1年	国語	公民	数学	理科	保体	芸術	英語	家庭	総合	総合
	5	2	6	4	4	2	6	2	1	1
2年	文	国語	地歴	数学	理科	保体	英語	総合	総合	総合
		5	8	6	2	3	7	1	1	1
3年	理	国語	地歴	数学	理科	保体	英語	総合	総合	総合
		5	4	6	7	3	6	1	1	1
3年	文A	国語	地歴	体育	芸術	英語	総合	総合	総合	総合
		8	8	3	2	10	1	1	1	1
	文B	国語	地歴	数学	理科	体育	英語	総合	総合	総合
	6	8	5	4	2	6	1	1	1	
理	国語	地歴	数学	理科	体育	英語	総合	総合	総合	
	4	3	7	9	2	6	1	1	1	

## SSH(Super Science High School)事業

国内外でリーダーとして活躍できる科学者・技術者の育成を目指す

○SSH: [スーパーサイエンスハイスクール]

「将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する学校」  
(文部科学省指定)

○指定期間:平成29年度から2期目5年間

国内外でリーダーとして活躍できる人材の育成

発展し続ける伝統進学校

国内外で活躍できる科学者・技術者の育成

課題研究Ⅱ・SS情報Ⅱ(2年生で実施)

課題設定 → 探究活動 → 論文作成 → 発表

課題研究Ⅰ・SS情報Ⅰ(1年生で実施)

課題発見 → 調査探究 → 論文作成 → 発表演習

科学系課外活動の充実

- SSHクラブの活動
- より高度な探究

カリキュラムの開発

- 主体的な学び
- 科学的思考力の育成
- 分野融合
- 協働的な学び
- 国際性育成
- 教科横断型授業